



カケハシ・プロジェクト派遣プログラムの記録

対象：カケハシ・イノウエ派遣第2陣

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国へ日本の大学生および引率者計25名が派遣され、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2019年2月24日～3月3日の日程でプログラムを実施しました。

一行は、学校交流で日本の魅力紹介プレゼンテーション及び実演を行い、視察先では米国や日米両国の関係について理解を深めました。プログラム中、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて積極的に対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪米経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加団体・人数】

名城大学 計25名

【訪問地】

米国（カリフォルニア州）

2. 日程

- 2月24日(日) 【到着】
- 2月25日(月) 【オリエンテーション】
 - 【講義】JINS アイウェア US
 - 【表敬訪問】在サンフランシスコ日本国総領事館
 - 【視察】ピア39
 - 【視察】アメリカ陸軍情報部歴史学習センター
 - 【視察】ジャパントウン
- 2月26日(火) 【NPO 団体視察】レッドウッド・エンパイア・フードバンク
 - 【視察】ソノマ郡オリーブ・オイル工場
 - 【視察】サンフランシスコ・ソラノ伝道所
 - 【視察】ソノマ広場
- 2月27日(水) 【学校交流】ソノマ州立大学
- 2月28日(木) 【視察】カリフォルニア大学バークレー校
 - 【ワークショップ】
- 3月1日(金) 【報告会】
 - 【歓送会】
 - 【視察】ウェストフィールド・サンフランシスコ・センター
- 3月2日(土) 【出発】
- 3月3日(日) 【帰国】

3. プログラム記録写真



2/25 【表敬訪問】在サンフランシスコ日本国総領事館



2/25 【講義】JINS アイウェア US



2/25 【視察】アメリカ陸軍情報部歴史学習センター



2/26 【NPO 団体視察】レッドウッド・エンパイア・フードバンク



2/27 【学校交流】ソノマ州立大学



3/1 【報告会】

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

アメリカの学生は自分の国や地域、大学に誇りを持っていることに驚きました。日本では自分の通っている大学のロゴが入った服を着るのは恥ずかしいことですが、彼らは自身満々に着こなし、堂々と歩いていてかっこよかったです。また私がアメリカについて質問すると自身たっぷりにたくさんのことを教えてくれて圧倒されました。私は自分の国や暮らしのことについて詳しい情報を知らなかったので聞かれた際はあたふたしてしまい、魅力が十分に話せませんでした。しかしながらアメリカ訪問を終えてアメリカ文化の多様性だけでなく日本の「こだわり」や最先端技術、美しい自然に改めて誇りを持てるようになりました。今後、アメリカの学生を日本に招くときは自信を持って日本のことが大好きだといえるようにしっかり学びを深めたいです。また、アメリカの学生もインターネットを多く利用していたので、SNSを使ってたくさんの人に日本の魅力が伝わるように随時発信します。私はアメリカに行く前は、アメリカは日本よりも音楽、ファッション、経済力、自然の豊かさや自由度が上回っていると感じ、強いあこがれを漠然と持っていました。もちろんアメリカは自分の期待以上に発達していて、圧倒されました。しかし今まで当たり前だと思っていた日本の素晴らしさにも気づき、国と国は比べるものではないと思いました。残念なことは、日本のスポーツ選手が世界中で注目を集め、日本の漫画、アニメが世界で人気があるとされていますが、現地の学生に日本のイメージを聞くと、あまり日本に対して具体的なイメージがなく、「まだ素敵なことがたくさんあるのに」と悔しかったです。2020年東京オリンピックが開催され日本はより世界から注目を集める時期になります。この絶好な機会を逃さずに、引き続き日本と世界をつなぐカケハシになりたいと思います。

◆ 大学生

今回のカケハシ・プロジェクトは海外から日本を見ることができた良い機会でした。自分が慣れ親しんでいる世界ではない所から自分の環境を見てみると、今まで当たり前だと思って見逃してきた良いところや逆に問題点が見えてきました。企業の方からのお話で、満員電車を当たり前と思ってはいけないとお聞きしました。カリフォルニアでも車の渋滞があり、それを改善するために動き出しているそうです。車のことや満員電車だけでなく、自分たちの身の回りの問題点を当たり前と捉えず、それを改善するために動き出すことが大切だと思いました。加えて、その企業では商品の名前を、アメリカに合わせて変えて販売しています。どのようなものでも、その土地に合わせて受け入れられるようにするという考えがとても興味深かったです。それは、日本での私の身の周りでも同じことだと思ったからです。将来、自分が働くとき、自分の意見や考えを海外の方に伝えるには、海外の方にあつた対応をすることが大切で、その時のために英語や文化を学ぶことが必要になってくると思います。英語はツールなのだと再認識することもできました。

5. 受入れ側の感想

◆ 学校交流参加学生

初日に日本人学生が披露したプレゼンテーションは素晴らしかったです。日本人がどのような人々であるかを知ることができ、目を見張る体験となりました。日本のユニークな製品、パフォーマンスアート、書道やポップカルチャーについてのプレゼンテーションを聞き、日本がどのような国であるか予想して楽しむことができました。



◆ 学校交流参加学生

私は日本人学生たちの英語の流暢さと、英語で自分たちを表現できる能力に驚きました。彼らの努力に感化されて、私も日本語のフレーズをいくつか覚えようと思いました。交流プログラムにより、他の文化や国との架け橋を築くことの重要性に気づくことができました。



◆ 学校交流参加学生

日本人学生たちのプレゼンテーションはとても洞察力に富んでいて、有益な情報が含まれていました。私は日本人の慣習や、二つの国の類似性または相違性について知識を広げることができました。日本人学生たちはアメリカを訪れ、日本の魅力に自ら気づくことができたのだと思います。

6. 参加者の対外発信

 <p>2019.2.25 平成30年度対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」～2日目～</p>	 <p>2019.2.27 平成30年度対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」～3日目～</p>
<p>カケハシ・プロジェクトについての発信 (tumblr)</p> <p>カケハシ・プロジェクト2日目の午前中は、サンフランシスコにある日本総領事館へ視察に行き、実際の仕事内容や活動について学びました。また、そこでは日系企業の JINS Eyewear の新井氏から、アメリカと日本のビジネススタイルの違いを聞いたり、将来に向けてのアドバイスを頂きました。午後には、アメリカ陸軍情報部 (MIS) 歴史学習センターを訪れ、日系アメリカ人の収容所での生活や、彼らの歴史について教えていただきました。どちらも、日本を多角的に見る機会になりました。</p>	<p>学校交流についての発信 (tumblr)</p> <p>ソノマ州立大学にてプレゼンテーションを行いました。名城大学生は4つの班に分かれ、それぞれのテーマで日本の紹介を行いました。1班は、“Unique Japanese Products (UJPs)”をテーマに、日本の「ランドセル」、「お弁当」、「ウォシュレット・トイレ」について文化背景をあわせて発表しました。2班は「能」、「狂言」、「歌舞伎」、「文楽」の4つの芸道について紹介しました。3班は、書道の実演を、4班はオタ芸について発表しました。どの班も1か月間準備と練習を重ねた成果を発揮することができました。またソノマ州立大学の学生やスタッフとも交流を深めることができ、とても充実した1日でした。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p><u>アクション・プランの発表 1</u></p> <p>SNS を活用して、カケハシ・プロジェクトで知ることができた知識や経験を動画や画像にまとめて多くの人にシェアする。アメリカでの体験は日本では感じることもできないものが多く、それらをまとめると新しい視点に繋がる貴重な発見となった。私たちが得た様々な気づきを発信することで、同じ感性や興味をもつフォロワーに良い影響を与えることが可能だと考える。</p>	<p><u>アクション・プランの発表 2</u></p> <p>学内の学生に向けて、昼休みや授業後の時間を利用して、カケハシ・プロジェクトを通して感じたこと、気づいたことを発表する。アメリカと日本の違い、それによって分かる日本またはアメリカの魅力を発信する。また、世界で人気の日本のポップカルチャーの一つとしてオタ芸を披露する。</p>